

「しらかしの^{みち}径」を歩くということ

2021年5月

法人事務局 川畑 さとみ

忍耐は練達を、練達は希望を生むということを

(ローマの信徒への手紙5章4節)

これは、河内長野駅よりの通学路「しらかしの径」の入口にあるアーチの裏面に刻まれている聖句です。「endurance忍耐」、「character練達」、「hope希望」という3つのロゴが、木々に囲まれた緑の中で一際目立ちます。



「しらかしの径」と聞けば、高原をイメージしたのどかな散歩道を連想される方が多いかと思いますが、実際に歩いてみると、山登りさながらの登り坂や階段が続きます。眼下に天見川を見下ろし、川面に野鳥の姿も見られるのですが、そんな景色など目に映らず、ただただ下を向いて汗だくになりながら学校を目指さなくてはなりません。



しかし、生徒たちはこのようなきつい坂道を毎日登っても、「また明日、学校に来たい」と言います。それは、学校に着けば、友達に会える、語ることができる、共に勉強するモチベーションも上げることができる。だから、学校は楽しい、学校に行きたいと思うからだそうです。そして、しらかしの径を登りきると、毎朝、校長先生の笑顔と元気な挨拶が出迎えてくれます。

さて、この上に挙げた聖句は、次のように続きます。

希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。 (ローマの信徒への手紙5章5節)

イエス・キリストは、すべての人、とりわけ身分の低い人、病に苦しむ弱い人にも目をとめられ、その深い愛を注がれました。もちろんその愛は、私たちにも注がれています。

毎朝「しらかしの径」の坂道を登る時、忍耐、練達、希望へと必ず繋がると考えれば、少し足どりも軽くなり、帰りの下り坂を降りる時に絶景の夕日と出会えば、神様の愛を感じ満喫した一日になることでしょう。